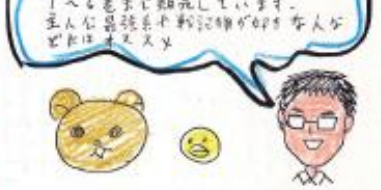

古今東西

H26年6月27日
足立高校
図書委員会制作

図書室について

本は昼休みと放課後に借りる事ができます。

本は一度に10冊まで借りれます。

借りれる日数は2週間です。

皆さん気軽に図書室に
来てください！

7月15日ビブリオバトル開催！！

場所　視聴覚室

時間　13：15 開始

参加者募集は
7/11(金)
まで。
クラスの図書委員
に言うか
直接図書室に
言いに来てね♥

ルール

1、発表者（バトラー）が読んで面白いと思った本を持って集まる。
2、順番に一人5分間で本を紹介する。
3、それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分行う。
4、全員の発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。

ビブリオバトル

〝去年の足立高校代表　有馬くんの話〟

- どのように本を選びましたか？
→自分が最近読んだ本の中で、「この本なら他の人に自分らしく紹介できる」と思った本を選びました。

- 5分間何を話しましたか？
→自分が読んでいて自分が感じたこの本の見どころ、キーワードになる部分、どういう視点で見るとより楽しめるかなど伝えられるように努力しました。

- 聞いていた人たちの反応はどうでしたか？
→読んだことがある人は「それ分かる！」と今にも立ち上がってしまいそうなくらい目が輝いていて、読んだことがない人でも、「もっと話を聞きたい！」と言わんばかりに興味深そうに発表を聞いてくれました。

- 本大会での他の人の発表はどうでしたか？
→他の人の発表も新鮮で、自分が読んだことのない本はもちろん、読んだことがあっても「こういった見方もあるのか」と発見有り、とても楽しかったです。
そんな中でも、今まで読まなかったジャンルに興味が湧いてきたり、本を読んでみたいと思わせる力がビブリオにはあると思います。
どんな本を読んでいいのか分からないという人はビブリオバトルで上位だった人の紹介した本など読んでみるといいと思います。

文化祭・古本市！！

文化祭にて古本市を行います。
そこで皆さんが不要になった本を集めたいと思います。
本の種類は、雑誌、マンガ、文庫本など何でもOKです！
不要な本がある方は、7月18日(金)の終業式の日までに図書室に持ってきてください！！
また、古本市での収益金は生徒会によって他団体へ寄付され、残った本も「かものはしプロジェクト」に寄付します。
『誰かの役に立ちたいけど、どうしたらいいのかわからない』
そんな方がいましたらぜひご協力お願いします！！

古今東西

H26
7月18日
足立高校
図書委員会

突撃Bookインタビュー！！

好きな本、マンガについて熱く語ってください！

～国語科の大熊先生～

旅のラゴス〈著〉筒井康隆

「人生は旅」という例えを実践しているかのような小説。高度な文明を失った代わりに、人々が超能力を身に付け始めた世界で主人公ラゴスは様々な出来事を経験しながら生涯をかけて旅を続ける。彼の旅の目的は何なのか。その世界観に惹きつけられるSF物語です。

足立高生に一言！

～英語科の井上先生～

おすすめの本を教えてください！！

本の題名「本日は、お日柄もよく」
作者名（原田 マハ）
出版社「徳間文庫」

おすすめポイント
言葉の力のすごさを実感できる作品です。
人間のあたたかみ、情熱や想いをいかに言葉で伝えるかを主人公と共に学びながら自分が成長することができます。

足立高校の生徒にひとことお願いします！

「勉強できるありがたさを感じて欲しい。
そして、自分は何を目指すのか、今考えて欲しい。」

～美術科の柴田先生～

おすすめの本を教えてください！！

本の題名「工場萌えF」
作者名（石井 哲（写真）、大山顕（文））
出版社「東京書籍」

おすすめポイント
工場の写真がたっぷりの、工場グラビア写真集です。
工場鑑賞スポットガイドもついていて実際に見に行きたい人にはとてもありがたい一冊。
工場の機能美にはまる人はすごくはまるはず。
特にドイツの工場は美しいです。
「廃墟萌え」もオススメ！

足立高校の生徒にひとことお願いします！

「本の良いところは大真面目に語られる変な意見や自分とは違う考えを読めることだと思います。
自分の考えが広げられるような良い本に皆さんも出会えるといいですね。」

オーバーロード

作者名（丸山くがね）
図書の菅野のオススメ

「ありふれてる厨二臭、骨だけの主人公などをふくんだ楽しい作品です。
主人公が異世界に迷い混むことから物語は始まりそれで世界を手に入れんとするファンタジー物です。
1～6巻まで販売しています。
主人公最強系や戦記物が好きな人などにはオススメ」

～国語科の樋口先生～

おもしろかったので
ぜひどうぞ。

沼地のある森を抜けて
梨木香歩・作

ひと昔前は、どこの家庭にもあった「ぬか床」。まぜ方ひとつで漬物の味がどんどんと変化するという「ぬか床」を中心に、この物語は進んでいきます。

最初は、「ぬか床」の後継者である主人公や、突然消えて、また現れる主人公の友人フリオや、「ぬか床」から生まれるいろんな人々や、男であることをやめた酵母研究家の風野さんなどの登場人物に魅せられます。しかし、物語が進むについて、自分のルーツは何なのか？「生命」とは何なのか？を考えさせられます。単なる「ファンタジー」とひとくくりにしては もったいない小説です。生物学に興味のある理系の人にもおすすめです。